

### 村田家について

村田家は阿川毛利の家臣（禄高十石）で代々豊北町滝部寺地に屋敷を構え農と馬医を業としていたという。父村田右中は阿川毛利十三代熙徳の命で萩郊外、中津江にあった下屋敷の番人となって滝部を去り、萩在住の時、長男の竹院和尚、松陰母滝子（三女）らが生まれた。

父右中は滝子が杉百合之助に嫁いだ際、萩大火で家を失った杉家（家禄二十三石）に護国山南麓にあった八谷藤兵衛（聴雨）の山荘「樹々亭」を購入して贈っている。ここで、梅太郎、松陰（寅次郎）、千代が生まれ育った。

父右中はこの結婚を機に、滝部に帰郷したようで六十才で没した。右中没後は滝子の弟与次兵衛が継ぎ四男一女を儲けた。長男辰之允は松陰の従弟にあたり第六代滝部の村長を勤めた。

### ○烈婦登波の碑

親族を惨殺し、夫に重傷を負わせた敵を十二年間追い続け本懐を遂げた烈婦登波。安政四年、登波の義挙を顕彰するために、時の大津代官周布政之助から依頼され、松陰が作成した顕彰文である。大正六年十二月登波ゆかりの滝部の八幡宮境内にこの碑文を刻した碑が建てられた。



烈婦登波の碑



### ○おわりに

松陰にとって、この北浦巡検は海防の必要性をより一層強く意識させられた旅であったであろう。

松陰は「地を離れて人なく、人を離れて事なし。故に人事を論ぜんと欲せば、先ず地理を観よ。」との言葉どおり、その後、長崎、熊本から東北の青森に至るまでの旅をし、道々の地理を極め、多くの人々に出会い、学問や思想を深めながら、国の行く末を考え、今何を為すべきかを思索探求していったのである。

今回の「松陰ゆかりの地巡検」では、村田家顕彰会の熊井清雄会長さんから、顕彰碑建立までの経緯、除幕式の様子等について詳しい説明を受けるとともに、烈婦登波の碑についても懇切丁寧な説明をいただいた。心からお礼を申し上げます。

また、昼食には、地元海の幸、山の幸満載の美味しい食事を格安でご提供いただき唯々感謝である。

若き松陰の当時の憂国の思いに心を馳せながらの楽しく有意義な旅となった。

（文責 理事 松本芳之）



### 研修を終えて（解散式）

